

きく薬局物語 ～ 創業より50年を振り返って

過去、現在、そしてこれから...

私共のきく薬局は、お陰様を持ちまして今年2月5日に創業50周年を迎える事が叶いました。これも創業以来当店を支えて頂きました幾多のお客様のお陰と深く感謝申し上げます。

この冊子は、先代の横田伊太郎・妙子の創業以来、今日に至るまでのさまざまな出来事やエピソードを思い出しながら纏めて見たものです。

お目通し頂きながら、「あの店にもいろいろな事が有ったのだな...」と御笑納頂ければ幸甚に存じます。

平成22年2月

有限会社きく薬局

代表取締役 横田 高太郎

1. 創業(昭和 35 年 2 月) から昭和 50 年頃まで

きく薬局は昭和 35 年 2 月 5 日、先代の横田伊太郎・妙子(現社長の両親)、が現在の地に創業致しました。この前日の 4 日に私の姉の聡子が生まれましたので、初めての子が誕生した喜びを噛みしめながら父は一人で開店の扉を開けた様です。

創業当時の店は写真の通りの小さな店でした。場所も決して良いとは言えず、近隣の住民からは「こんな場所で二、三年持つのか?..」と云われた事も有った様です。

私の両親は夫婦養子で横田の家に入ったのですが、当時は開店資金に余裕がなく、他の場所に開店する事は考えられなかったため、横田の家が元々あった現在の場所に開店したのだと後に両親から聞きました。



昭和 35 年創業当時の店舗

しばらくは余裕のない経営が続きましたが、父は薬局としての向上を求めて、当時全国の薬局経営のコンサルタント的存在であった松香雄二先生の指導を受けに東京に通いました。昭和 38、9 年頃の事です。先生はこれから成功する薬局として ①薬や健康の相談が出来ること、②赤ちゃんの相談 ③化粧品の実演と販売 を経営の柱とする指導をされました。

どの家庭でも、赤ちゃんが生まれたての頃の若いママは不安で一杯なのは今も昔も変わりませんが、赤ちゃんが成長するにつれて私共に何でも相談してもらえれば長い年月の固定客となって頂けること、また化粧品も毎日皮膚に使用するものですから、それを取り扱うのは専門家の薬剤師がいる薬局である事が店の信頼につながるというのが松香先生のポリシーでした。これは今でも立派に通用する考え方で、薬局とは国民が健康な生活を送るためのアドバイスやお手伝いをする場所であるのが本来の姿であると思います。

父は松香先生の教えに共感し自分の理想の店づくりを行いました。また薬局の皮膚病相談の指導者の(故)神馬欣三先生の御指導を受ける機会にも恵まれ、毎月 1 回早朝の列車で仙台に通い研鑽を重ねました。

赤ちゃんの育児相談会を毎月 26 日に店内で行い、赤ちゃんを連れて若いママ達が大勢相談に訪れました。その名簿は母が市役所の窓口へ通って教えて頂いたり、また当時は出生した赤ちゃんの情報が新聞に載っていましたので、それを基にDMを郵送させて頂きました。今と違い個人情報の保護など問題にされず、おおらかな時代でした。こうして地域の健康相談薬局としての土台が造られて行きました。



ベビー相談会風景 (昭和 44、5 年頃)

二代目の私もそうだと思いますが、先代である父も、一生のうちに一流の師匠に出逢う事が出来たという幸運を持って生まれた人であった様です。現在もきく薬局の柱であり特長である本格的な漢方相談は、先代の父と二代目の私が、漢方界でも超一流であった二人の師匠に出逢いその教えを受ける機会に恵まれた事により実現し、現在に至るものです。

師匠の一人、(故)小倉重成先生は千葉県木更津市で眼科の小倉医院を開業されていました。先生は漢方薬と玄米菜食一日一食で、患者さんにマラソン等の運動をさせるという独特の養生・鍛錬法で難病を治し、全国からたくさんの患者が集まっていました。折しも私が中学生の頃、母が急性腎炎となり地元の医師からは絶対安静を言い渡されたのですが、当時漢方の勉強を始めていた父が小倉先生の医療に感銘し、母に入院を勧めました。母は入院後玄米菜食一日一食と1日10キロのマラソンで、見事に1週間で腎炎が治りました。母の退院後、両親は私共へ相談に見える難病の患者さんにこの素晴らしい医療をお教えしたいと考え、わが家の玄米菜食の食事を写真に撮ってアルバムにし、患者さんの食生活のアドバイスに役立てる様になりました。両親は祖父母の介護が始まるまで、ほぼ毎日の様に二人でマラソンをして玄米菜食も実行しておりました。しかし当時中学生であった私は、この食事には不満でよく反抗しておりましたが...

もう一人の師匠は、父と私、そして私の伴侶である家内の3人が教えを受けた漢方の大家、(故)渡邊武先生です。渡邊先生は昭和40年代の半ば頃、カネボウ漢方の学術講師として全国を講演され、父もカネボウ主催の漢方講座で渡邊先生の教えを受けた一人です。余りに素晴らしい講義でしたので、先生がカネボウを退職後、父のほか数名の先生で渡邊先生を担ぎ出して独自の漢方研究会(日中医薬研究会)を立ち上げて、先生に会長となって頂き引き続き教えを乞うた程です。私も大学を卒業後すぐに22歳で入門し、親子二代に亘り40年近くの間そのお教えを受けました。私が家内と出会ったのもこの日中医薬研究会での事です。渡邊先生には他所では学ぶ事の出来ない貴重な漢方薬の講義のほか、日本の気候風土に合った食の養生法をお教え頂きました。

日本の漢方界でも著名な二人の師匠のお教えを受ける事が出来、またその御人格にも大きな感銘を受けた事により、現代医学では治らない多くの難病の患者さんの相談に当ることが父と私の親子二代亘るライフワークとなりました。



小倉 重成 先生



渡邊 武 先生

2. 昭和 50 年店舗改装 ～ 平成 2 年私の帰郷まで

昭和 50 年には店舗の大改装を行いました。この改装の際に、それまで店の柱の一つであった化粧品部門を無くしました。少し前からデパート等で化粧品の実演販売が行われる時代になっていましたが、まだまだ薬局でも化粧品が売れる時代でした。それを思い切って切り捨てたのは、多くの化粧品は化学合成品であり肌に良いとは云えず、お客様に積極的に勧めする事は出来ないという父と母の考え方によるものです。以後は安全な自然化粧品の少しだけ扱いました。

また同時にベビー用品部門も無くしました。その頃にはマスコミや雑誌などで育児の情報が多くなっていましたので、親身になってアドバイスをしても素直に聞き入れない若い親が増えて来たという風潮が出て来ていた様です。これも時代の流れというものでしょう。

その代わり、店は漢方や皮フ病相談を中心とした相談薬局としての地盤を固めつつあったので部門を無くした影響はほとんど無かった様です。



改装後の店舗（昭和 62 年頃）

母が中村式ダイエット法の指導を始めたのもこの頃からでした。今と違いダイエット商品など世の中にほとんど無い時代でしたので、福島民友新聞に広告を載せた途端反響がものすごく、電話やハガキで問い合わせが沢山寄せられたのを私も記憶しております。医学界でも認められた正しいダイエット法である中村式減量法は、指導を初めて今年で 35 年目を迎えました。

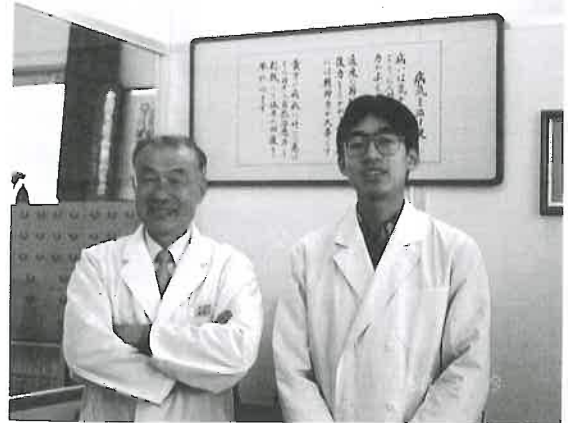
姉と私は二人共薬科大学に入学して薬剤師となりました。私は昭和 59 年春に卒業してすぐに家業に就職したのですが、一年半くらい過ぎた頃、父は私が鍼灸の免許を取って治療を行えば店の大きな特色にもなり、又お客様のニーズにより多く応える事が出来ると考え、私に東京の鍼灸学校へ行って鍼灸師の免許を取得する事を勧めてくれました。当時は来店されるお客様の殆ど全てが父と母を目指して来店されていたので、息子の居場所を作ってやる事も考えたのでしょう。

その様な訳で、私は昭和 61 年の春に再上京して東京の鍼灸学校へ入学し、2 年後に鍼灸師の免許を取った後は千葉県木更津市の小倉医院で漢方と鍼灸、食養の東洋医学の实地の修行に通わせて頂きました。また目黒区の龍鳳皇漢堂薬局で 26 歳の時に店 1 軒を任されて貴重な経験をさせて頂き、大変中身の濃い 4 年間で平成 2 年の 2 月に再び戻って来ました。

3. 平成2年の新店舗ビル建設 ～ 現在 ～ そしてこれから

私が戻って来ると云う訳で、両親は現在のきく薬局ビルを建設し、完成したのは平成2年1月でした。店の前に駐車場を設けたので店舗は狭くなりましたが、新たに薬局の裏に鍼灸治療室を設けて私が治療を始めました。

鍼灸の治療は足かけ6年間ほど行いましたが、平成6、7年頃から郡山市でも医薬分業が進み、私共の様な薬局にも処方箋が来る様になり対応せざるを得ませんでした。次第に治療に支障を来たす様になってしまい、残念ながら治療室は閉じる結果となりました。



新築の店内で父と（平成2年3月頃）

この頃から全国的な風潮として、薬局は処方箋調剤を行うものだという時代になり、以前は相談薬局であった同業者の仲間の中にも処方箋調剤に力を入れるべく方向転換を行った薬局も増えましたが、私は両親からは薬局の理想的なあるべき姿を学び、また教えを受けた師匠からはこの仕事の使命感と尊さを若い頃より十分に教わりましたので、処方箋応需のブームに惑わされる事なく、現代の医療で良い効果が得られなかった方の力になる健康相談薬局としての道をひたすら進み、今日に至っております。

この間、お客様対象の健康講演会や骨強度測定会、血液のバイタルチェックなど色々なイベントも行いました。健康講演会は現在でも定期的に続けられており、健康に関心の高なお客様が熱心に受講されています。

昔と違い、健康に関する情報や知識が大変多い世の中になり、お客様も情報に振り回されて混乱されている場合も多い様です。

正しい健康の知識をお伝えし、お客様が御自身や御家族の方の健康を考える機会になればと考えております。



きく薬局健康講演会風景

きく薬局の創設者であった先代の父は、昨年の2月1日に薬剤師として、また薬屋の店主として活躍した生涯を終えました。父の告別式が行われた2月5日は、奇しくも父がきく薬局を創業した日でありました。

創業以来、幾多のお客様に支えられ、また信頼を寄せて頂きました事は父にとっても本当に喜ばしい事であったと感謝に絶えません。

数年前より、世の中ではあらゆる分野において規制緩和・自由競争が進んでおりますが、薬業界も例外ではなく、処方箋調剤が専門の薬局とドラッグストア全盛の時代となり、昔ながらの「街の薬屋さん」薬局は全体の2割ほどになってしまいました。このまま行くと私共の様な健康相談薬局は本当に化石の様な存在になってしまい、現代医学の治療で満足のでられない方は相談する所が無くなってしまいう事も懸念されております。

私共の師匠、(故) 渡邊武先生のお教えの中に決して忘れる事の出来ない言葉が有ります。「あなた方は薬師如来になりなさい。私が救う事の出来る患者さんはごく少数ですが、日本全国に薬師如来が大勢いれば人類の福祉に大きく貢献する事が出来るのです....」と。師匠のこの言葉を肝に銘じ、これからも皆様のお力になって行きたいと存じます。




これからの半世紀に向けて頑張っていきたいと思えます。

今後共、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

**横田 妙子
高太郎
いずみ
真太郎**



右上 : 昭和 50 年に改装する前の店舗
 右下 : 化粧品コーナーと母、妙子
 左 : 初期の相談コーナーと父、伊太郎
 (いずれも昭和 47、8 年頃)



**ぜひ一度
ご来店下さい!!**
 五人グループ研究なる
新時代のヒフ病薬
 新しい宣伝販売活動愈々開始!
全国皮膚病薬研究会 各地支部
指導運動幹事となりました
 ● 本人が来てご相談下さいませ!
 薬いろいろ手当養生特に研究組デス
 相談は朝のうちにお出で下さい午後には電話して下さい
 来て下さいま遠くの方に特にご注意下さい

郡山市堂前町八四 (全国皮膚病薬研究会) 西側
きく薬局
 電話②四三二八番



育児相談
赤ちゃん用品の
ことなら
 39
きく薬局
 電話②四三二八番

研究して取りまますから...
 妊娠中の初期・後期から...
 妊婦中の心得...
 産後の一ヶ月...
 毎月一回...

皮フ病相談・ベビー相談のチラシ (昭和 39、40 年頃)